

【天白川】 2026年9月8日の大雨における治水事業効果

愛知県

2026.10.23追加

- ・天白川は名古屋市など5市2町の市街地を流れる県管理の二級河川であり、東海豪雨の被害を受け、河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)により、2000年度から2004年度にかけて約7.6km(0.9k～8.5k)の区間で引堤や河床掘削の河川整備を実施しました。
- ・これらの河川整備を行ったことで、今回の大雨(2026年9月8日)においては、激特事業による計画高水位の見直し分(151cm)を差し引いた上で、天白川水位観測所で**約210cmの水位低減効果**がありました。事業を実施しなかった場合、計画高水位を上回り、堤防の高さ付近まで水位が上昇したと推定されましたが、事業の実施により、堤防の決壊等による浸水被害のリスクを軽減しました。

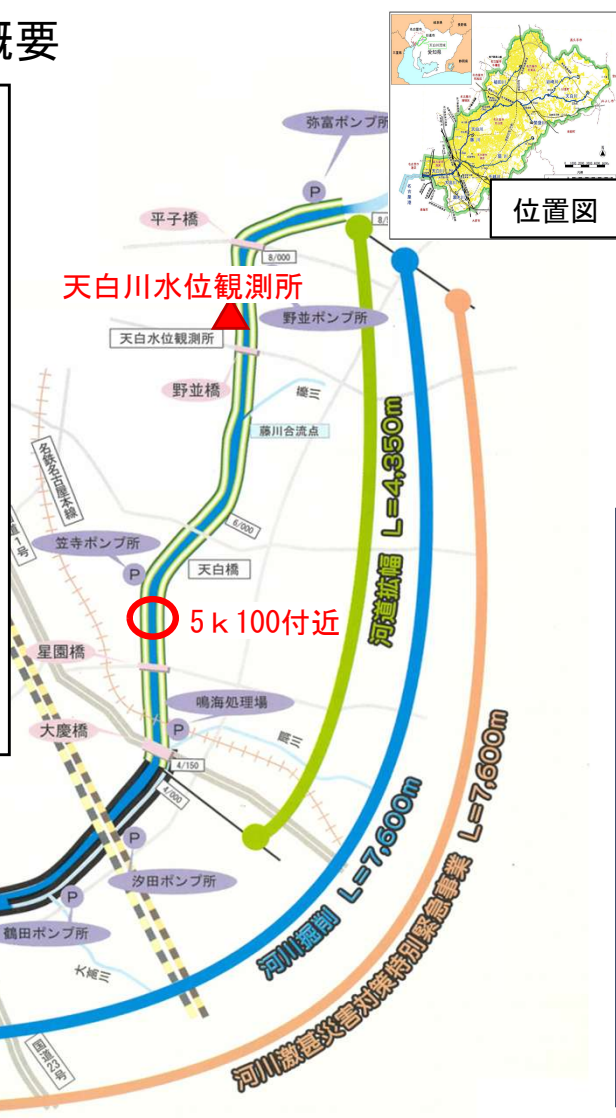
天白川激特事業の概要

河川整備 (5k100付近)

整備前



整備後



東海豪雨と今回の大雨の比較

	最大60分雨量 (日進観測所)	河川の最高水位 (天白川水位観測所)	
		激特事業前 (東海豪雨時河道)	激特事業後 (今回大雨時河道)
東海豪雨	77mm	10.19m (実績)	—
今回の大雨	89mm	10.26m (推定※)	6.65m (実績)

※2026.9.8の実績水位から計算した流量が、東海豪雨時の河道を流下したものととして算出。

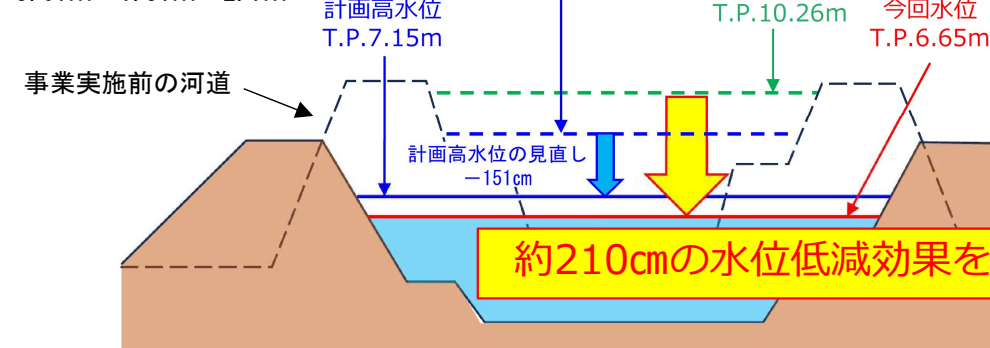
天白川水位観測所における水位低減効果 (今回の大雨)

水位差 (事業前水位－今回水位)

$10.26\text{m} - 6.65\text{m} = 3.61\text{m}$

低減効果 (水位差－計画高水位見直し分)

$3.61\text{m} - 1.51\text{m} = 2.1\text{m}$



約210cmの水位低減効果を発揮

※激特事業による計画高水位の見直し分(151cm)を差し引いた値を水位低減効果として評価した。